

小林久美子通信



菊陽町町会議員
日本共産党所属
連絡先 096-232-4536

2021年6月議会で小林久美子議員は、
コロナ関連質問と災害対策の質問を行いました

町民の命と暮らしを守ることが最優先！

質問項目

- ★災害に備えて白川護岸工事の迅速化を
- ★エッセンシャルワーカーの定期的 PCR 検査とワクチン優先接種を
- ★経済的支援として ◇「生理の貧困」への対策を
 - ◇18歳までの医療費無料化を
 - ◇給食費の無料化もしくは補助を



河川の整備を急ぎ、水害に備えてほしい

★白川護岸工事の迅速化を

小林議員：梅雨の季節となり、去年の球磨川水系のような事態が白川水系で起きない保証はない。立野ダム建設については、異議を持っているが、ダム完成までにも河川補修など万全にしておく必要がある。熊本市内側は完成しているのに菊陽町側が放置されているのは問題だ。白川の豪雨対策はどう進めるのか。また津白橋下流の土囊については、「連続箱型鋼製枠」の設置を検討できないか。

町担当：河川対策については、白川水系河川整備計画に基づき、みらい大橋から津白橋上流の約2,300メートルで測量設計業務を行っている。提案された「連続箱型鋼製枠」については、あくまでも仮設構造物である。津白橋下流については、早期の河川整備を要望したいと考えている。

小林議員：これまでも雨季に備えることを求めてきたが、対策を急いでほしい。流域協議会については、住民や学識経験者が含まれず、傍聴もできない。住民に広く知らせる形で進めてほしい。避難情報の伝達については、個別受信機が設置される点は評価する。水害対策については、気候変動にそった大きな転換が求められている。立野ダムは、そもそも洪水調整専用のダムで、白川の洪水対策として最も有効な対策なのか疑問だ。穴あきダムでは、穴が流木や土砂などでふさがり洪水調整ができなくなる恐れがある。白川を有する自治体として、積極的に治水の在り方を研究し、発信してほしい。

気候変動に応じた災害対策の検討が求められています

コロナ禍、安心・安全のための施策を！

★エッセンシャルワーカーの定期的 PCR 検査とワクチン優先接種を

小林議員：コロナ感染症対策については、役場職員の方は、業務量増で負担が大きいと懸念している。ワクチン接種については、介護施設の入居者、従事者に優先接種がなされたことはよい判断だった。県でもやっと高齢者施設クラスター発生を予防するために PCR 検査を打ち出した。町はどうなっているか？また、他議員への回答で、社会福祉協議会のヘルパーの方たちへは、キャンセル分のワクチン接種を考えているということだが、学校、幼稚園、保育園、学童保育関係者にも優先接種を検討していただきたい。

町担当：県内の行政による PCR 検査は、県または医師の判断で実施されている。県独自の対策として週 1 回4回まで高齢者施設に補助が出る。学校や保育園などでもクラスターが発生することは承知している。検査については、国が主体的に行うことが必要と考える。ワクチン接種を急ぎたい。



小林議員：日本共産党は、政府のコロナ封じ込め対策が不十分で遅いとして、国政の間でも政府に緊急要請を行い、安全・迅速なワクチン接種、大規模検査と隔離、十分な補償の 3 本柱でコロナ感染症の封じ込め戦略の実行を求めてきた。現政府の施策が後手後手で不十分である中でも、「町民の健康と生業を守る」ために町行政には、住民に寄り添ったきめ細かな対応をしてほしい。

長引くコロナ自粛、 さらなる経済支援を！

★18歳までの医療費無料化を

小林議員：大津町では、18 歳までの医療費無料化が実施されると聞いている。菊陽町では、どう考えているか。先ほどの同僚議員に対する町長答弁では、「菊陽町は、子どもの数が増えており、学校整備などに経費がかかるが、無料化は、視野にに入れて検討する。」ということだった。町長の公約でもあるので、私もしっかりと応援していきたい。



★「生理の貧困」への対策を

小林議員：生活に困窮している方たちへの対応として NHK でも報道された生理の貧困を取り上げる。生理用品1パック 300 円前後でも「食費を切り詰めているので我慢して子どもの食べ物に回したい」など食糧支援時に寄せられた声だ。生理用品配布に取り組む自治体は、39 都道府県の 252 自治体だ。政府は 4 月に生徒、学生への支援など学校トイレ配備を含む通知を出している。学校や公共施設に無料で設置するなど町でも対応できないか。

町回答：学校では、緊急時対応として保健室に置いている。コロナ禍で、生理用品を借りにくる児童・生徒は増えてはいない。設置は管理面、衛生面に問題があるので、養護教員に相談するよう周知していく。公共施設については、近隣自治体の状況をみながら検討していく。

小林議員：生理の貧困は、コロナ以前からあった問題が可視化された。実施自治体では、防災備品の転用がされている。現場の声を聞き予算をつけて、困っている方たちに寄り添った対応を進めてほしい。



★給食費の無料化もしくは補助を

小林議員：以前議会で給食費の無償化を要請したところ 2 億円の予算が必要との回答だった。昨年 6 月議会では、山鹿市が 1 年間学校と保育所の副食費を無償としたことを紹介した。コロナ収束まで全額負担でなくても何らかの対策が取れないか？

町回答：菊陽町では自校方式で給食を提供しており、給食施設設備に要する経費がかかるので食材費については保護者負担としている。負担の大きい家庭には就学援助制度があり、現在約 440 名の児童・生徒が受給している。今後も就学援助制度については、全家庭に周知していく。

小林議員：ぜひ町独自の給食費の補助を検討してほしい。就学援助については、申請者ベースなので該当者全員に行き届いているかはわからない。さらに就学援助の申請をしやすくする工夫が必要だ。町の HP 上では、いまだに民生委員が関与するという文章があるので削除してほしい。また就学援助を受けられることができる収入の目安を明記して知らせてほしい。また学校メールや配布物で広く知らせる工夫をしてほしい。



農業を守りたい！日本の米を守りたい！

—小林議員が議員提案を行いました—

「新型コロナ禍によるコメ危機の改善を求める意見書」 は、賛成10・反対7で可決！

コロナ禍によるコメの需要損失により、2020年産米の市場価格は大暴落しました。コロナ禍がそのまま長引けば、3年連続の米価暴落も危惧され、大規模経営でもコメ作りから撤退することにつながりかねないため、政府に次の対策を求めました。対策としては、市場に滞留する在庫を政府が買い取るなどして、コロナ禍による生活困窮者、学生などへの食糧支援に活用することなどを提案しています。

菊陽町議会では、採択した意見書を衆・参議長あてに提出することとなりました。



日本の農業が、私たちの命を支えています。

菊陽町は、日本のお米を大事にしたい！



さんふれあ横に

体育館建設が始まります

菊陽町総合体育館新築工事の請負契約が締結されました

契約の目的： (仮称)菊陽町総合体育館新築工事
契約の方法： 条件付一般競争入札
契約金額： 39億5450万円
契約の相手方： 浅沼・光進・東築特定建設工事共同企業体
期間： 令和5年6月30日まで
概要： 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建 伸べ床面積 8,713.19㎡
新築1棟
建築工事・電気設備工事・機械設備工事・外構工事 各一式